

わたしたちは、世界でいちばん、
強く素晴らしい武器をもっている



子どもたちの未来のために

ドキュメンタリー
映画

誰がために 憲法はある

女優たちが語る
平和への思い

次代へ語り継ぐ
戦争の記憶

PROMULGATED ON NOVEMBER 3.1946

CAME INTO EFFECT ON MAY 3.1947

渡辺美佐子

高田敏江 寺田路恵 大原ますみ 岩本多代 日色ともゑ
長内美那子 柳川慶子 山口果林 大橋芳枝

監督:井上淳一 「憲法くん」作:松元ヒロ 音楽:PANTA 制作:馬奈木蔵太郎 プロデューサー:片嶋一貴
撮影:高井孝洋 土屋武史 高岡賢治 向山英司 照明:石田健司 録音:白井勝 光地拓郎 ヘアメイク:清水美穂 編集:蛭田智子
助監督:永永賢 植田浩之 制作:長谷川和彦 宮城広 メイキング:小関裕次郎 宣伝プロデューサー:岩本玲
協力:「夏の会」制作プロダクション:ドッグシュガー 配給:太秦株式会社(有)九州シネマ・アルチ
2019年/日本/69分/DCP/カラー/ドキュメンタリー c「誰がために憲法はある」製作運動体 www.tagatame-kenpou.com

二度と戦争はしない。その崇高な理想は、人類社会の未来を指し示す

Promulgated Cave 芸人・松元ヒロの一人語り「憲法くん」を演じる 女優・渡辺美佐子の鎮魂の旅

「憲法くん」とは、井上ひさし、永六輔、立川談志も絶賛したお笑い芸人・松元ヒロが20年以上、日本国憲法の大切さを伝えるためユーモラスに演じ続けている一人語りである。「憲法くん」はこう言う。「わたしというのは、戦争が終わった後、こんなに恐ろしくて悲しいことは、二度とあってはならない、という思いから生まれた、理想だったのではありませんか」。そして、「わたしの初心、わたしの魂は、憲法の前文に書かれています」と憲法前文を一気に暗唱する。憲法に対する深い愛と洞察が込められたこの「憲法くん」を語るのは、「戦争を知る世代として、再び戦争の悲劇がこの国に起こらないように、この役を魂を込めて演じました」という、今年87歳になる女優・渡辺美佐子。文字で読む憲法と違い、本作で朗読される日本国憲法前文は、心の奥深くに突き刺さる。

原爆朗読劇を続けるベテラン女優陣が語る戦後、 未来へ託す思いとは――

渡辺美佐子は初恋の人を疎開先の広島で亡くしたことを戦後35年目の1980年になって知った。彼の死を知った渡辺は中心メンバーとなり、現在まで33年間、鎮魂の想いを込めてベテラン女優たちと原爆朗読劇の公演を続け全国各地を回っている。しかし、その朗読劇は今年で幕を閉じる。本作では渡辺をはじめ、女優たちがこの活動を通じて抱くそれぞれの思いを語る姿を映し出す。

監督は「大地を受け継ぐ」(15)で原発事故により汚染された土地で農作物を作り続ける農家と、そこを訪れる学生たちの姿を真摯に見つめたドキュメンタリーを手掛けた井上淳一。同作でもタッグを組んだ弁護士馬奈木蔵太郎とともに、「憲法とは何か? なぜできたのか?」という原点を見つめ直すことができる作品を完成させた。子どもから大人まですべての人が日本国憲法について考えるきっかけを与えてくれる必見のドキュメンタリー!

渡辺美佐子

高田敏江 寺田路恵 大原ますみ 岩本多代 日色ともゑ
長内美那子 柳川慶子 山口果林 大橋芳枝

監督:井上淳一 「憲法くん」作:松元ヒロ 音楽:PANTA 制作:馬奈木蔵太郎
プロデューサー:片嶋一貴 撮影:高井孝洋 土屋武史 高岡賢治 向山英司 照明:石田健司
録音:白井勝 光地拓郎 ヘアメイク:清水美穂 編集:蛭田智子 助監督:永永賢 植田浩之
制作:長谷川和彦 宮城広 メイキング:小関裕次郎 宣伝プロデューサー:岩本玲
協力:「夏の会」 制作プロダクション:ドッグシュガー 配給:太秦株式会社

[2019年]日本/69分/DCP/カラー/ドキュメンタリー
©「誰がために憲法はある」製作運動体

www.tagatame-kenpou.com

映画「誰がために憲法はある」上映会

とき:11月30日(土) 開場 18:15 上映開始 18:45より

ところ:サンレイクかすや・多目的ホール (上映時間69分)

主催:映画「誰がために憲法はある」をみる会 共催:九条の会かすや
連絡先:092-938-7213(鐘江) / 092-939-1499(武富) / 092-621-1348(川口) / 092-938-9112(乙須)

《鑑賞料金》

大人 1000円

「映画を武器に世界と闘う」とは、我が師・若松孝二の言葉だが、憲法改正がいよいよ現実のものとなつてきそうないま、表現にかかわる者の端くれとして、何もしくていいの。そういうやむにやまれぬ思いから、この映画を作った。戦争の記憶が薄れ、憲法にこめられた理想が忘れ去られつつあるいまこそ、ひとりでも多くの人にこの映画が届くことを願うのみである。

(監督 井上淳一)